

## 勉強は苦行？なぜ勉強するの？

なぜ、子どもは勉強しなくてはならないの？  
と、もしきかれた時、あなたならどうお答えでしょうか？

「一生懸命勉強して、良い点数を取って、良い学校に入り、良い会社や役所に就職して、良い生活をして、自分や家族が将来にいい思いをするために、そのためには歯を食いしばって今の「苦しい」勉強に耐えなければならないのよ。」という風にお答えの方もあるかもしれません。

この答えはこれで間違いでないにしても、ただ「自分や家族だけが将来にいい思いをするため」ではなくて、将来に自分が、「世のため、人のために役立てる人間になるために、」勉強を一生懸命頑張る、というふうに考える方が正しいし、モチベーションも上がると思います。

また勉強は苦しいけど将来のために今は歯を食いしばって我慢して頑張る、という考え方も、あまり度を過ぎると弊害が起き、人間性を歪めてしまう恐れもあります。

そもそも勉強は苦行でしょうか？もし本当に苦行なら、子どもに強いるのはひどいし、かわいそうです。勉強が苦しいだけだとすれば、いくら将来がバラ色だと言われても、今が耐えられないではないでしょうか。

確かにつらいときや苦しいときもありますが、しかし勉強は、知る喜び、分かる楽しさを実感できる、人間としての本源的な喜びだ、という観点を忘れてはなりません。

未知のことを知りたい、学びたい、という思いは、誰にも備わった人間の基本的な欲求の一つです。

学ぶこと・向上すること・勉強することは、人間としての当然の要求であり、喜びです。

この喜びを子どもに教えていくことは大人の義務と言うべきでしょう。本来、勉強は楽しいもののはずですし、喜んでやるべきことのはずなのです。

たしかに現実に受験勉強はつらいものが、でもつらいばかりでもないはず。勉強を楽しいものだと見るか、苦しいものだと見るかでは、同じ時間していても**集中力**や**成果**が随分と違ってきます。ですからつらい中にも喜びや楽しさを見つけ、**勉強は楽しいものだ**と思うようにするのが大切ではないでしょうか。

「こんなこと実生活で使わないのになぜ覚えなくてはならないの？」

と子どもが疑問を感じる場面も少なくないでしょう。しかし**勉強する学習項目**というのは、**それらが実生活に直接役立つから学んでいるのではないのです**。それを学ぶことを通じて**アタマの活性化と発達**を促しているのだということを忘れてはなりません。勉強は**アタマのトレ - ニング**なのです。

そもそも人間はアタマを使う生き物で、スポ - ツなどで身体を鍛え成育させなくてはならないのと同様に、人はアタマを鍛錬し発達させなくてはならないのです。勉強はそのための**アタマのトレ - ニング**です。

また人間は働かなくてはなりません。大人は仕事をしなくてはなりません。**子どものシゴト**は勉強です。だから子どもが勉強するのは当たり前です。

**勉強が嫌い、と言ってやらないのは、大人が仕事が嫌いと言ってやらないのと同じです**。そんな怠け者では、この社会では生きていけません。

だからといって、子どもはただ勉強だけをしていれば、いいかということ、そんなことはありません。大人が仕事さえしていれば家のことは何もしなくて良い、ということにはならないのと同様です。子どもは勉強はもちろん、家のお手伝いなどにもクリエイティブに関わらなくてはなりません。そのように**生活体験**が豊かでないと本当の勉強はできません。

子どもはのびのび遊ばせるのがいい、ということは無責任に言う人がいます。その場合「**遊び**」の**中身**が問題です。創造性や想像力や社会性が豊かに育っていくような「遊び」ならば、大いに遊ばせるべきですが、現実には、屋内でゲ - ムなどでヒマをもてあまし、ただブラブラと時間を浪費しているだけでは、その子には何の意味もなく、全くマイナスでしかないでしょう、

人間が人間としてこの社会で、きちんと生きていくには、**必要な知識や常識や技能**を身につけておかななくてはならず、そうでなければまともな社会生活ができません。だから人間は勉強して知識をつけ、**考える力・感じる心・想像力等**を養わなければなりません。

「人間は死ぬまで勉強だ」と言います。勉強は子どもの時だけではありません。社会に出てから、大人になってからの勉強の方が大量です。そのための基礎を固めているのが子ども達の今の勉強とも言えるのです。

ですから将来のためにも、子どもには勉強の楽しさとすばらしさを、しっかりと体感させておきたい、と思います。